学校保健

平成25年11月　No. 303

(公財)日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/

JAPANESE SOCIETY OF SCHOOL HEALTH

(公財)日本学校保健会

平成25年度 エイズ教育推進 ポスターコンクール

ポスター 採用作品決定

全国からご応募ありがとうございました。日本学校保健会エイズ予防教育検討委員会（衛藤隆委員長）での審査の結果、各部門のポスター採用作品が決まりました。

絵画の部 採用作品（応募総数369点）



茨城県ひたちなか市立市毛小学校
4年　松岡 美樹さん



宮城県仙台市立吉成中学校
3年　小松 美奈子さん



愛知県立愛知工業高等学校
2年　宮内 ももさん

キャッチコピーの部 採用作品（応募総数714点）

〈小学校版〉知ろうエイズを　みんなのために　自分のために
兵庫県市川町立瀬加小学校　6年　岩崎 麻奈さん

〈中学校版〉つなごう心　知ろうAIDS
熊本県益城町立広安西小学校　6年　河村 琉生さん

〈高等学校版〉理解し愛　手を取り愛　見つめ愛
沖縄県宜野湾市立嘉数小学校 養護教諭　宮城 明美先生

上記の作品をポスター化し、全国の学校等へ配布します

主な誌面

特集　児童生徒の心の健康Ⅳ
スクールカウンセラー・学校との連携……2～3
シリーズ「健康教育をささえる」㊸
大阪市養護教員会の取組……4～5
咬合異常と学校保健……6～7

健康教育推進学校表彰校の実践⑩
和歌山県立桐蔭中学校……8～9
エイズ・HIVの現状……10
エイズ教育推進ポスターコンクール応募作紹介……11

学校保健会ニュース 創刊のお知らせ

学校保健会ニュースは、日本学校保健会が学校職員、学校保健関係者向けに発行するメールマガジンです。学校保健関連のニュースや学校保健ポータルサイトに掲載された時節にあった情報をタイムラグなく、全国同時に配信します。



学校保健会ニュースサイトでは、話題の健康テーマに関する特集記事（「ほけんだよりプラス」）を配信します。サイトからダウンロードすることもでき、ほけんだよりや校内の掲示などへの利用もできます。

メールマガジン登録受付中!!

さらに　メールマガジンにご登録頂くと会員特典として「ほけんだよりプラス」のコピーを無償配布します。
ご登録は、学校保健ポータルサイトから ⟶

- 創刊日：2013年12月1日
- 発行日：毎月2回（1日、15日）の定期発行に加え、随時増刊号を配信予定
- 購読費：無料
- 申　込：学校保健ポータルサイト（http://www.gakkohoken.jp/）

回覧	校　長	教　頭	保健主事	養護教諭	栄養教諭・栄養士	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年６回（奇数月）の発行です。学校保健委員会の参考に学校医等の方へもご回覧ください。

平成25年度

特集　児童生徒の心の健康Ⅳ

スクールカウンセラー 私の実践 ～学校との連携を中心として～

お茶の水女子大学准教授
公立中学校スクールカウンセラー　伊藤　亜矢子

スクールカウンセラー（以下 SC）というと、相談室で児童生徒が相談に来るのを待つ「カウンセラー」のイメージが強いかも知れない。しかし、SC は、「スクールカウンセラー」の名の通り、治療・相談機関とは異なる学校だからこその役割を持っている。

例えば、学校医の先生は、校内で「治療」を行うのではなく、健診や助言などをされる。校内で、子どもたちの健康を守り増進する「予防・成長促進」の心強いアドバイザーである。

SC の役割もそれに似ている。**図**のように、学校には、SOS を出している子どもだけでなく、進学や転校などで心の健康を乱すリスクが高くなっている子どももいれば、他の大勢の子どもたちもいる。SC は、SOS を出している子や保護者からの相談を直接受けるのはもちろん、リスクが高まっている児童生徒に気づき、校内でできる支援を先生方と考える。先生方と役割分担して大事に至らないよう関わりを工夫し、その他の子どもたちも含めて、予防教育を行う。学校の日常の中で、先生方や子どもたち･保護者と協働して、「予防・成長促進」をめざすのが SC の特徴である。しかも学校医の先生と違って、学期中はほぼ毎週、学校に勤務できるから、日常的に先生方と連携・協働できるのも特徴である。

しかし連携というと今度は、SC は何でも先生方に話してしまう人ではと誤解されることがある。秘密を守るのは大前提である。密告が連携ではない。子どもたちと接しながら臨床心理学の専門知識を生かして、子ども理解を深め、先生方と一緒に適切なかかわりについて考える。また、保護者から先生に伝えてほしいと託されたことを先生に伝え、先生方と役割分担して問題解決にあたることもできる。以下、実践例をあげる。

【活動例１】　廊下や給食時の学級訪問で

廊下や給食時の学級訪問で生徒と話すのは本当に楽しい。子どもたちの姿は、一瞬一瞬が、中学生らしさにあふれている。生徒でもなく教師でもなく、たぶん生徒にとって曖昧な存在の SC だが、さりげなく席を整えて親切にしてくれたり、学校生活の話をしてくれたりする。ときには、担任の先生が前の週に心配していた生徒を偶然見かけることもある。前回の訪問時に比べて元気を失っている子や、周囲の子との関係が難しそうな子に気づくこともある。そうした教室で感じたことや、そこから今後必要と思われる支援について、先生方と話し合うことができる。廊下や学級訪問で生徒と顔見知りになっておくと、生徒も相談に来やすいし、先生や保護者から、相談を受けたときに、すぐにあの子だなと分かる利点もある。普段の様子を知ることは、予防や先生方との連携のスタート地点となる。

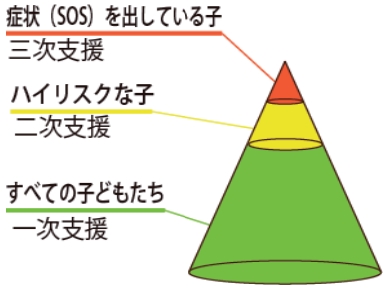


図　全校型支援のモデル　伊藤（2011）

【活動例２】　先生方との協働

担任の先生が、係活動や授業などでちょっとした配慮をして下さると、子どもたちにとって大きな助けとなることは少なくない。先生方が理解を示し、応援してくれていることが分かると、子どもはそれだけでずいぶんと支えられる。多くの生徒に埋没した存在ではなく、他でもない自分を先生が理解してくれること、それだけでも、子どもにとっては大きい支援になる。程よい距離から、自分のことを理解し応援しようとしてくれる人が校内にいるという実感を持っているほど、子どもたちは安心感ややりがいを持って学校生活を送れるのではないだろうか。面と向かって悩みを話す

より、ユーモラスに楽しい瞬間をつくってくれる先生方に力をもらえる子どもも多い。先生方のちょっとした配慮で、子どものぶつかっている壁が突破しやすくなることもある。そうした先生方からの応援のチャンスを増やすお手伝いもSCの役割である。日常的に、先生方と気がかりなことや困難が予想される場面について打ち合わせ、先生方の理解や関わりを支援する。小さなことを積み上げながら、問題が大きくならないよう、先生方と協働するのもSCの大事な活動である。

【活動例３】　保護者の皆さんと

「相談するほどではないけれど、親として学校の様子を知りたい」「先生に知っておいてもらいたい情報だけれど、あえて電話して伝えるのも……」。こうした思いはしばしばあると思う。このような思いに応えるため、保護者の皆さんと学校の協力を得て、保護者向け相談室開放の日を設けることがある。校内での支援は、SCひとりではできない。学校というコミュニティに関係する人それぞれが、お互いに支え合う大切な力である。何かあったときに、さりげなく気遣ってくれる友達や、友達のお母さん。そうした存在が、子どもたちの心の健康や成長を支えるし、生涯の宝になる。カウンセラーが心理面接するよりも、子どもにとってはきっと、ずっとずっと大きな支援ではないかと思う。先生方だけでなく、保護者や子どもたちの力が生きる支援のネットワークを、どのように増やせるか。オープンルームで知り合ったお母さんたちのネットワークができ、それが、何かあったときのセーフティネットにつながれば、校内の支援の力もそれだけ増す。こうしたネットワークづくりも、学校との連携で可能である。

【活動例４】　予防教育

受験勉強で緊張が高まるクラスで、リラックス法について紹介する。落ち着かないクラスで、気持ちを落ち着ける方法を紹介する。そのような身近な問題解決や、問題の予防に役立つ心理学的な知識を、先生方と一緒に子どもたちに伝える授業ができる。

子どもたちの感想を交えながら授業を展開していくのは、一瞬一瞬の出会いがあって本当に楽しい。心理学の知識を日々の生活に活用してもらえればありがたいし、こちらも授業中の子どもたちの様子から、彼らがぶつかっている課題を理解することができる。こうした予防教育の授業が、相談や問題解決の端緒になることもある。ほどよい距離で子どもたちと知り合いながら、子どもたちが自分の力で心の健康を守るお手伝いができたらと思う。

学校は治療・相談機関と異なり、治療ではなく教育の場・成長の場である。そうした場であることを生かした支援の工夫（伊藤，2009）が、SCには求められる。1995年度に全国の公立学校にSCが調査研究活用事業として配置されたときから20年近くが過ぎた一方で、まだ配置のない学校や導入間もない学校もある。日本のSC活動はまだ発展途上である。校内では、先生方や保護者、子どもたちなど多くの人々が役割分担しながら力を合わせることで、大きな支援につながる。SCだけに「お願いします」はちょっと寂しい。SCと先生方が協働することでどう支援を行えるか。まだ発展途上の日本型SCであるが、協働の機会がますます増えればと思う。

伊藤亜矢子（編著）　2009　学校臨床心理学　学校という場を生かした支援　北樹出版
伊藤亜矢子（著）　2011　スクールカウンセラー活用のアイディア　東京法規出版

健やか親子21公開講座　後援：厚生労働省
「思春期の危機をどう乗り越えるか」
主催：健やか親子21推進協議会課題1幹事団体
日時：平成25年12月26日（木）13：30開場
会場：東京慈恵会医科大学
　　大学1号館3階講堂（東京都港区西新橋3-25-8）
定員：250名（先着順、定員になり次第締切）

参加無料
内容：
1．若者の性感染症の課題
　岩室紳也（㈳地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター）
2．約束から始まるデートDV
　上村茂仁（ウィメンズクリニック・かみむら）
3．虐待を超えてきた子ども達の思春期
　～葛藤と精神的病理のはざま～
　笠原麻里（駒木野病院　児童精神科）

※応募は日本学校保健会まで往復ハガキで。応募方法等、詳しくは学校保健ポータルサイト（http://www.gakkohoken.jp）をご覧ください。

シリーズ　43

「健康教育をささえる」～養護教諭の現場から～

大阪市養護教員会の取組
―養護教諭の資質の向上と職務の充実をめざして―

1　はじめに

大阪市では、全ての子どもたちが学力を身につけながら健やかに成長し、社会が多様化し激しく変化する中でも、心豊かに力強く生き抜き、未来を切り拓く力を備えることをめざして、教育改革を進めています。

この目標を達成するための基盤は、何と言っても子どもたちの心身の健康です。そのため養護教諭は、各校園の学校保健活動の中核となり、取組を推進する役割を担っています。大阪市養護教員会では、その養護教諭一人ひとりの資質の向上をめざして、組織的な研究・研修活動を展開しています。

2　地区別・校種別共同研究

大阪市養護教員会は、大阪市立の幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校の養護教諭で組織されています。そして校種別に研究部会を設け、それぞれの発達段階における健康課題に焦点を合わせた研究活動を行っています。その成果は順に発表し、平成25年度は、次の4題の研究発表が行われます。

西淀川区小学校共同研究
保健室から発信するピア・サポート活動
～できることからボチボチ力を合わせてはじめよう～

淀川区小学校共同研究
「いつでもどこでもだれでもできる」保健指導
～パワーポイントを中心とした指導教材の研究～

第８ブロック中学校共同研究
生徒の実態に即した保健指導
～「性に関する指導」と「連携」について～

高等学校共同研究
保健管理上配慮を要する生徒の実態と関わりについて

このように共同で研究に取り組むことは、研究内容を深めるとともに、相互の連携を図り、情報を交換し合うよい機会となり、自校園での職務を円滑に進めるためのネットワークを広げることにつながっています。

研究発表を通して、それぞれの発達段階の特徴や抱える健康課題を共有し、子ども理解を深めることができるため、大変有意義であると実感しています。

3　養護教諭の実務についての研究

組織の１つとして研究部を設置し、子どもたちの健康課題や養護教諭の職務に関する調査を行い、実態の把握と問題の解決の方法を模索する研究活動も行っています。最近の研究テーマは以下の通りです。

平成21～22年度「よりよい連携のために」
平成23年度「ヒヤリ・ハットの事例から学ぶこと」
平成24年度「組織での事故対応・危機管理について」
平成25年度「養護教諭の職務の現状について」

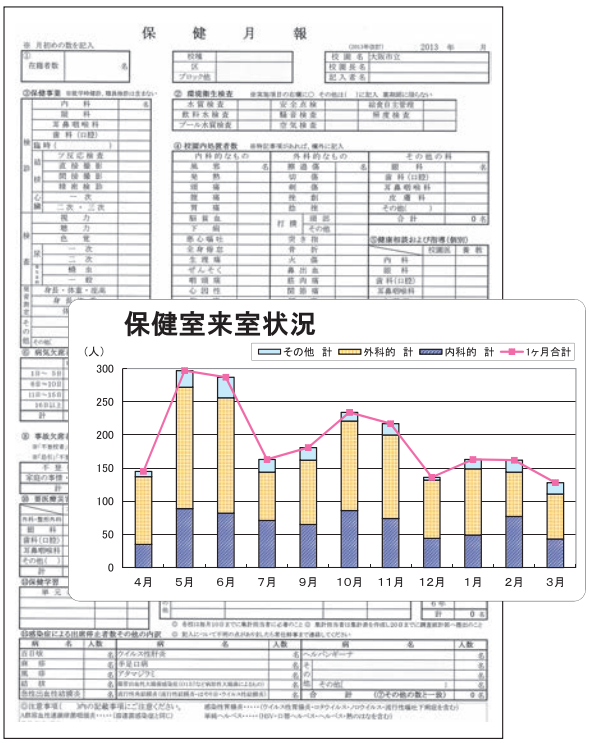
大阪市では、新規採用の教員が年々増加し、世代交代が進んでいます。その中で、各校園にほぼ一人配置の養護教諭は、多様なニーズの対応に困難を感じる場面があると思われます。このような背景をふまえ、ここ数年の研究では、養護教諭の専門性を生かしながら、より組織的に学校保健を推進することをテーマにして取り組んでいます。

その結果、問題の発見にこそ養護教諭ならではの視点と情報力が必要であること、また課題解決には、発信する力、コミュニケーションの力を発揮し、組織的に対応すること、さらに、アレルギー対応や危機管理におけるマニュアルの作成等においても、多数の教職員で取り組み、ともに意識の向上と連絡体制の周知徹底を図ること等が重要ポイントとして報告されています。この研究は、大阪市教育委員会の研究支援「がんばる先生支援」を受けています。研究報告会には養護教諭とも

に関係教職員も参加し、理解と連携を深める機会となっています。

4　調査研究「保健月報」

もう１つの重要な組織活動として、調査統計部の 60 年以上続いている「保健月報」の取組があげられます。各校園の来室状況や欠席状況、保健活動状況などをひと月ごとにまとめて報告し、それらを校種別に集計します。集計されたデータにより、大阪市の学校保健の動向が一目でわかるため、自校園の数値と比較し、課題の発見や発信に役立つ貴重な資料となっています。



また、調査統計部が作成した“保健月報エクセルファイル”では、自校園の月報をスムーズに入力でき、年間の学校保健のまとめが自動的にできあがります。最近では電子メールでの報告が可能になり、さらにデータが効率よく活用できるようになりました。

5　実務のための参考資料集



学校保健計画、保健室経営案の立案、救急体制や組織活動の確立、健康診断票や各種報告書の作成方法や手順、留意事項など、執務に必要な内容を盛り込み、「学校保健における養護教諭実務のための参考資料集」を編集しました。平成 22 年の初版から、追加・差し替えを行い、現在第４版目となります。各自の手元に置いて、すぐにひも解け、執務を効率よく進めるために便利な資料集です。

6　研究誌「あゆみ」



大阪市養護教員会の１年間の研究・研修活動を編集部がとりまとめ、研究誌「あゆみ」を発刊しています。昭和 25 年発刊の第１号から今日まで、途切れることなく会の歩みを伝えてきた「あゆみ」。今年度で第 59 号となります。

7　おわりに

大阪市立学校園の養護教諭約 550 名が、一堂に会し、研修を行う機会は年に４回あります。この研修会を通して、現代を生きる子どもたちの健康に関する新しい知識や情報を共有し、研鑽を重ねていくとともに、関係組織とも密に連携しながら、大阪市養護教員会はさらなる歩みを進めていかなければならないと考えています。

（文責／大阪市養護教員会顧問　岡本幹子）

公益財団法人 日本学校保健会　平成25年度「学校保健用品・図書等推薦」（追加） 推薦期間：平成26年3月31日まで

品　目	摘　要	会　社　名
しろくまのきもち　キッズ	水だけで首元が冷やせ、繰り返し使えるサマースカーフ。園児・児童の熱中症予防に有効な頸動脈を冷やせる冷却グッズ	株式会社ビッグウイング
熱中症注意表示板「トリガーボード」	日常の学校生活における実践的防災教育教材。通常気温では校訓や教育標語の表示、熱中症の危険気温になると自動的に注意喚起の表示に反転し、児童生徒に危険回避行動を起こすきっかけを与える	株式会社奥村

【歯・口の健康】

咬合異常と学校保健

東京医科歯科大学　名誉教授　黒田 敬之

近年の学校歯科健康診断の診査結果を見ると、かつて大変多く見られた、高いう蝕罹患率、12歳児での高いDMFT指数が著しく減少している反面、歯列、咬合、顎関節に問題を抱えている子どもや歯肉炎、歯周疾患罹患のリスクの高い子どもたちが増えて、注意を要する状況にあることに気がつく。う蝕罹患率の減少は、永年にわたる歯科保健教育の内容が広く世間に浸透した結果と、万人の認めるところである。

一方、口腔疾患の問題は、多様化してきていることも事実であり、その理由は、個体の持つ遺伝形質による以外に、社会生活の複雑化、子どもを取りまく環境の変化、食生活の変貌、生活習慣の変化など環境的要因によるところが大きい。本稿では、歯列、咬合、顎関節の不調和（異常）に関連してその誘因についてふれ、さらに、それらに対して学校保健教育ではどのように対処していくか、について私見を述べてみたい。

歯列・咬合の不調和（異常）は一般に不正咬合と呼ばれている。一本、一本の歯の形や大きさが平均的な値に比べ極端に違っている場合にも、歯列・咬合に不調和な箇所が見られてくる。先天的に乳歯や永久歯の欠損が見られたり、通常の歯の数に加えて過剰歯があれば、歯列・咬合はどこかに不調和が生じる可能性は強い。顎が大きすぎたり歯の大きさが小さかったりすれば、空隙の多い歯列弓となる。逆に、顎が小さく歯が大きい場合には、いわゆる叢生と言って凸凹の歯並びの歯列となる。このように歯と顎の大きさの間に不調和があれば、上下顎の咬合関係にも不調和が生じてくる。また顎の成長発育の異常によっても、上顎前突や下顎前突という症状が生じてくる。顎の成長発育変化は、学童期から思春期にかけての極めて大きな身体の変化の一つである。

このように、咬合を構築する、歯、歯列弓の大きさ、形、顎の成長発育の程度などの要素は、遺伝形質に影響されることはもちろんではあるが、その他に、多くの環境要因にも影響される。例えば、乳幼児期の乳を飲み込む時の舌と口唇と顎堤との接触関係が、乳歯列が完成してからも残存しているような場合（異常嚥下癖）には、上下前歯が噛み合わない、開咬と言われる咬合の不調和が生じてくる。乳幼児期の指しゃぶり、頬杖つきなどの習癖も長期にわたって存続すると咬合の形成に与える影響も大きい。開咬とは逆に、下唇を噛み込む癖などにより下顎の前歯が舌側に傾斜し、上顎の前歯が突出して、しばしば、下顎前歯が上顎前歯の舌側歯肉を噛んで、炎症を起こし、歯肉炎から歯周疾患へと移行する場合も見られる。



形態的な咬合の不調和は、口腔機能、特に咬合運動、咀嚼運動にも大きく影響を及ぼすことがある。幼少時よりそのような咬合運動に不調和が見られ、思春期近くまで残存していると、下顎骨が急激に成長を見せる思春期性成長スパートの時期に、左右の下顎頭軟骨の成長の程度に差が生じ、いわゆる顎変形症に発展することがある。これら形態的な異常だけでなく、顎運動の異常は、いわゆる顎関節症を引き起こしてくる可能性もある。顎関節症は欧米では顎関節機能異常と呼ばれているが、20歳前後の女性に多く発症し、次いで50代過ぎからまた一つの山があるといわれていた。顎の開閉運動時の痛み、関節部での雑音、開口障害などを主徴とする疾患でその原因には幾つかの要因が考えられているが、咬合状態の不調和が要因になっていると主張する研究者も多い。そのため、子どもの時の噛みぐせや寝癖や頬杖などにより、歯列弓の形の歪が生じると将来的に顎の成長が影響を受けて顎が変位をしたり、顎関節症になる可能性が高いという仮説も提示されている。最近、学校健診にあって、若年性の顎関節症と判断される例が僅かではあるが見られるが、原因、要因が明確にされていないので、確定的にスクリーニングすることには、十分な注意を要するところであろう。

子どもたちの食生活は、食材の好き嫌いだけでなく、食べる、噛む、咀嚼する、飲み込むといった一連の行動に異常が観察され、噛まない子、噛めない子、早食い、ながら食い、といった摂食パターンの変化が、咬合の発達に大きな影響を与え

ることも明らかにされてきている。摂食行動は、「生きる」、「生き抜く」上で、最も基本的な行動であり、その行動に直接的な関わりを持つ顎口腔系の形態的、機能的に調和のとれた成長発育は、学童期のトータルとしての食生活パターンの正しい姿に依存している。

咬合が形成される過程で、不調和が生じる可能性を挙げてみたが、このような不調和な咬合状態は、単に子どもの口元の審美的な問題だけでなく、う蝕はもとより歯肉炎や歯周疾患、顎関節症など多様化してきている口腔疾患を二次的にひきおこす最も大きな誘因であることは明白である。そこで、学校歯科保健教育という視点から、この問題をどのように取り上げるべきかということが問題となる。現在の学校歯科健診が、その目的は、子どもたちの生涯にわたる健康づくりの基礎となるべく、自分たちの歯・口の健康課題を見つけ問題解決の方法を工夫・実践することができるような資質や能力を養うことにある。このような視点で考えると、学校歯科健診での結果からその事後措置として、大切なことは、疾患の治療、処置を勧めることではなく、そのような状態が近未来的にどのような口腔の疾患に発展する可能性があるかということを子どもたちに十分理解させ、どのような対処法があるかについて、相談に乗ることである。いわゆる歯科矯正治療を勧めるのではなく、現状から考えられる将来のリスクを説明し、保護者にも実情を理解してもらえるように十分な説明をすることが大切であろう。歯科矯正治療は、現在、日本では、先天的な疾患の一部と外科的な骨切り術を併用するような不調和な咬合異常以外は、国民健康保険の適用外となっているために自費診療となっている。従って、家庭の経済的な面も考慮しなくてはいけない問題を含んでいる。専門的な診察を受けて、明確な診断を受け、歯科矯正治療を受診する選択をした場合にも、学校保健教育の立場からは、矯正装置が常時装着されているような場合の食事後の刷掃指導には、矯正装置をつけていない場合よりも時間をかけ丁寧なブラッシングを心がけるように指導し、特に歯と歯の間や装置と歯の間などのブラッシングに気をつけるように指導する必要がある。また、装置をつけていることで、子どもたちの間で、“からかい”の対象となることも多いが、その点も子ども自身に自分の受けている治療の意義をしっかりと頭に入れさせることにより克服させることが出来よう。

咬合関係の治療をするということは、確かに痛い歯があるわけでもなく、これまで食事をする上で特段の不自由を感じていたわけではないので、自分ではそれほど苦にならないことかもしれない。著者が矯正学教室に入局した昭和36年の頃は、日本がまだ経済的に豊かではなかった時代だったし、歯科矯正専門の開業医は日本にはまだ一人もいないという時代であった。大学に来る患者さんも、午前中に見える方は極めて稀で、学校の授業を午後だけ抜けて２時、３時ぐらいから数名の患者さんが見えるといった程度であった。咬合関係の治療まで考慮する余裕もなかった。今や、口腔疾患と全身の健康とのあいだに密接な関係があることが証明され、若年性の高血圧、高血糖値症、メタボリックシンドロームなどのトラッキング現象も指摘されている時代となった。口腔疾患の将来の健康への影響についても本人はもとより、学校教職員関係者、地域医療担当者、家庭の間で、緊密な連携のもとに、子どもたちの健康を支えていく必要があると考える。単に見かけ上の審美的な問題として片付けるのではなく、生涯通じてのQOLの向上に注意を払っていくように教育・指導する必要があることを学校保健教育担当者の立場としてあるべき姿と考える。



健康教育推進学校表彰校の実践⑩

生涯を通じて、自らの健康を適切に管理し、改善していける生徒の育成

～健康教育と連携・連動する総合的な教育活動～

平成 24 年度最優秀校　和歌山県立桐蔭中学校

1　学校経営における健康教育

本校は、和歌山県北部、和歌山市の中心部に位置し、徳川御三家の一つである紀州徳川家の居城、和歌山城にもほど近い。

県立桐蔭高等学校の併設型中高一貫教育校として平成 19 年（2007 年）に設立され、今年で７年目を迎える６学級 240 名の県立中学校である。

６年間を「基礎期」「充実・発展期」「飛躍期」の３段階で構成し、基礎･基本を習得し深化させ、社会の変化に主体的に対応し、新しい時代を切り拓くことができる総合的な人間力を備えた人材の育成を目指している。

そこで、本校では、知・徳・体の調和のとれた



心身共に健康な人間を育成するという観点から、教育活動全体を健康教育と考えた。

2　健康教育の推進体制

⑴　教職員の推進組織と校内研修

健康教育を推進するため、トップリーダーである校長の経営理念のもと、保健部が軸となり、生徒の健康課題を考慮し、PDCA サイクルを学校保健活動のマネジメントとして活用し取り組んでいる。

⑵　家庭・地域社会との連携

本校の学校保健安全委員会では、様々な場面で把握された健康課題をもとに、健康推進について意見交換を行うとともに、学校医からの専門的な指導を受けている。そして、桐蔭中学校ホームページにも掲載されている「Monthly Times」や学年通信、保健だより、PTA 新聞「とういん」等による情報発信を積極的に実施している。

また、家庭や保健所、大学、地域の関連機関等と協力・連携した企画も行っている。

3　生徒保健委員会を中心とした生徒主体の主な特色ある活動

⑴　健康観察に関する取組

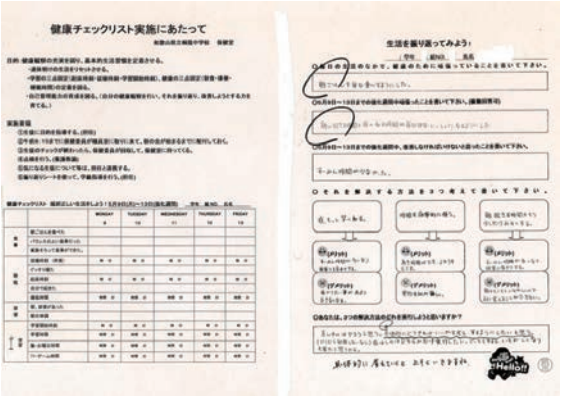
保健室経営重点目標の実践として、早寝・早起き・朝ごはん運動を実施した。年２回の強化週間を設定し、その期間中、朝の会で自分の健康観察を行い、「健康チェックリスト」に記入させた。

自分の生活を振り返り、どこが課題かを考え、その課題を改善するための選択肢を３つあげて、それぞれの選択肢のメリットとデメリットを考えさせた。その中でも一番行動が変容しやすいものを選択させ、自己管理能力の育成を図った。この取組を３年間継続して行い、中学生活を振り返る指導も行っている。また、学級担任は、学級指導を通して日常の健康観察も継続して行い、QOL（生活の質）を高める指導を行っている。

⑵　食に関する取組

１年生では、新入生交流合宿の昼食に、被災を想定したシミュレーションとして、備蓄用食料で食事をする体験、２年生では総合的な学習の時間に和歌山の名産でレシピを考案し、世界の食材とコラボさせるという学習を行った。

その他にも、関連教科の取組、生徒保健委員会活動による「桐蔭弁当プロジェクト」は、食育の



（健康チェックリスト・振り返りワークシート）

推進との関連を図り、計画的組織的に行っている。

(3)　歯科保健活動に関する取組

保健室経営計画重点目標の実践として、生徒自身が口腔内に興味・関心を持ち、その状況を理解し、自己管理する力の育成を図っている。このため、歯科健康診断前の自己検診を行い、観察させた後、歯科健康診断を受けさせた。受け身だった歯科健康診断から自律的な健康診断になり、生徒からはいろいろな気づきの感想があった。また、出前授業、生徒保健委員会による「8020の秘訣」などの地域との連携した取組、COを持つ者やGOと判定された生徒やむし歯のある生徒を対象に、口腔内の映像を見る器材を使って正しいブラッシングの指導、歯科校医による個人指導も行った。



(4)　「健康フェスティバル in 桐蔭 2012」の取組

保健師や管理栄養士、和歌山県立医科大学保健看護学部の教授や学生と生徒保健委員が連携し、文化祭に「健康フェスティバル in 桐蔭 2012」を開催した。「睡眠」「食」について調査・研究し、地産地消・旬産旬消の食材や和歌山の特産を使ったレシピを考案し、調理実習を行ったものをまとめた。また、「測定･体験コーナー」と「掲示コーナー」を設けた。高校生や保護者も参加するなど中高一貫教育校の特性を生かした啓発活動となった。



4　まとめ

生涯を通じて、健康を自己管理できる能力を育成するために創意工夫した取組を推進してきた。生徒保健委員会が中心として学校の生徒に啓発し広めていく取組は、生徒自ら健康に関心を持つようになるという指導効果を生み出している。今後も家庭・地域との連携を図り、心身共に健康で総合的な人間力の育成を目指していきたい。

文部科学省補助事業　研修会のお知らせ　第2報

「自信を持って取り組める医薬品の教育」研修会

主催／公益財団法人日本学校保健会

滋賀開催
日時：平成26年1月10日（金）
場所：栗東芸術文化会館さきら（滋賀県栗東市綣2－1－28）

茨城開催
日時：平成26年1月15日（水）
場所：未定

熊本開催
日時：平成26年1月16日（木）
場所：くまもと森都心プラザ（熊本市西区春日1－14－1）

内容
1．学習指導要領に基づく医薬品に関する教育（仮題）
2．学校での医薬品に関する教育の進め方（仮題）
3．学校での授業実践事例
4．「学校薬剤師」との連携のあり方（仮題）
5．特別講演「よりよいセルフメディケーションの実践に必要な知識」（仮題）

「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料」研修会

島根開催
日時：平成26年2月4日（火）13時開演
場所：ビッグハート出雲（島根県出雲市駅南町1－5）

※詳細は決まり次第、学校保健ポータルサイトやメールマガジン等でお知らせします

内容
1．これからの喫煙･飲酒･薬物乱用防止教育の考え方（仮題）
2．喫煙、飲酒、薬物乱用に対する児童生徒の意識と健康影響（仮題）
3．効果的な喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方（仮題）
4．小・中・高等学校における効果的な薬物乱用防止教育実践

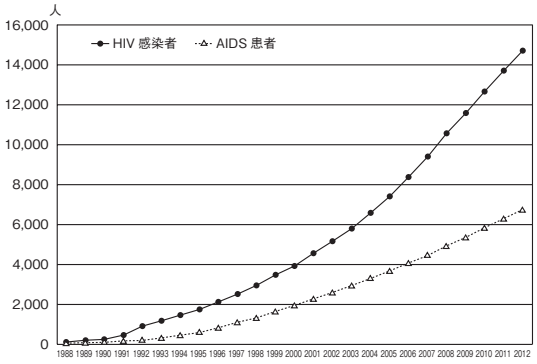
エイズ・HIVの現状

公益社団法人地域医療振興協会
ヘルスプロモーション研究センター
厚木市立病院　泌尿器科　**岩室　紳也**

パニックから他人事へ

1981年に後にエイズと命名される病気がアメリカで認識されてから32年が経過する中、HIV/AIDSに対する認識は大きく様変わりしています。発見当初は感染経路もわからないパニック時代でしたが、HIVが精液、血液といった体液に存在し、感染経路が限定的だということが明らかになりました。今では中学校の教科書に「コンドームは、正しく使用すれば（HIV）感染の危険性を少なくするのに有効です。」と記載されるようになりました。

HIV/AIDSは日本国内では増え続けているものの（**下図**）、近年は単年度で見ると感染している人の増加数は横ばい、もしくはやや減少傾向になっています。その一因は教科書が以前と比べれば内容が充実したことであり、教員の方々にはいつも「教科書をしっかり教えてください」とお話ししています。ただ、マスコミ報道が減少し、HIV/AIDSに関する情報に接する機会が減少し続けているため、他人事意識で受け止める人が増え、感染する人の増加が十分抑制されていないようです。



教科書が伝えないこと

一方で教科書が充実したとはいえ、残念ながら今の教科書の中には近年男性の新規感染者の約80％を占める男性同性間での性的接触による感染に関する記載はありません。私の患者さんには男性同性間性的接触で感染した現役の高校生もいます。では、どう伝えればいいのでしょうか。

伝える側は得てしてセクシュアリティについて学習し、理解、受容した上で伝えたくなりますが、私のゲイの友人が「岩室さんたち異性愛者はいいよね。パートナーがコンドームを出したら女性は望まない妊娠を心配している自分の気持ちを汲んで避妊してくれる優しい人と思う。でもゲイだと妊娠はあり得ないからどちらかが病気を持っていると疑ってしまう。だから『コンドームを使おう』と言えないんだ」と教えてくれたように、この言葉をそのまま伝えるだけで、男子20人に1人くらいはいるゲイの子に思いは伝わるようです。

HIV感染＝死ではなくなったが

HIVに感染しても早期に抗HIV薬による治療をすればAIDSで命を落とさない時代になりました。治療薬も進歩し、食事に関係なく、一日一回二錠の薬を飲むだけでHIVが検出限界以下まで抑えられ、免疫力の指標となるCD4陽性リンパ球も心配のない値まで回復するようになりました。ただ、今のところ一度体内に入ったHIVが完全に消える治療法はありません。一方で体内の様々な組織に潜伏しているHIVが長期間の感染で様々な問題を引き起こす可能性が指摘されています。HIVに感染してから20数年で若くして認知症様の症状が進む人が確認されています。外国では出生時にHIVに感染している子どもたちの知的発達に問題があるといった指摘もあります。HIVに感染してもすぐに命を落とさない時代になったとはいえ、感染しないことが重要であることに変わりはありません。

コンドームを見たことがない高校生が急増

ところが教科書に記載されているコンドームという言葉を教えても、急増している、コンドームを見たことも触ったこともない高校生は自分を、相手を感染から守る手段として受け止められないようです。男子の草食化のため中高生の性体験率も、10代のSTI（性感染症）も人工妊娠中絶率も低下していますが、コンドームがより身近な存在になるような働きかけが求められています。筆者がYouTube上にアップしているコンドームの正しい装着法は、新旧のバージョンを合わせた再生回数は500万件近くになっており、若者たちのニーズは高いようです。ぜひ、ご活用ください。

ランチタイムと咀嚼判定ガムを活用した“歯と口の健康づくり”学習

歯と口の健康づくり講座：福田雅臣准教授
（日本歯科大学　生命歯学部衛生講座）



『楽しく学ぼう！歯の健康づくり』［共催：(公財)日本学校保健会］が平成25年6月11日、中央区立京橋築地小学校（東京都）にて開催されました。11年目第1回の今回は4年生が対象で、ランチタイムをはさんでの講座です。

まず、パワーポイントで、むし歯の基礎知識、フッ素やキシリトールの効用などを、わかりやすく説明し、咀嚼判定を目的に作られたガムを使った体験に入ります。児童はピンクとブルーの2つのキシリトール入りガムを一緒に口に入れて60回噛みます。色がよく混ざって紫色になり、ガムが小さく、やわらかく、味が無くなった人ほど、よく噛めている証です。この体験を通して、噛む効用、規則正しい食事とおやつの重要性、歯の上手なみがき方、半年1回の歯科健診の必要性を学びます。ここでいったん授業を中断し、講師・先生方・スタッフが児童のグループの席に分かれ、みんなでランチタイム。食べながら、各グループでの食べ物や歯の話題がはずみます。そして食後には、咀嚼ガム体験の第2弾。緑色のガムを2分間噛みます。このガムはだ液と混ざると色が変化するガムで5段階のカラーチャートと見比べて、赤い色に近づくほど、しっかりと噛めていることが自己判定できます。最後に、規則正しい生活習慣の大切さを本日のまとめに、講座の終了です。

このように、給食の時間を巧みに組み込んだ新たな学習スタイル……食事体験を通しての学習だけに、噛むことへの意識づけが大いに身につく講座となりました。

平成25年度エイズ教育推進ポスターコンクール

ポスター採用審査最終候補作品のご紹介

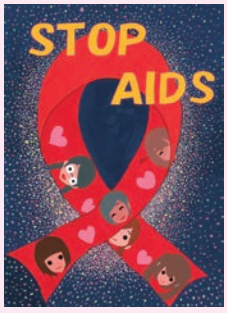
本コンクールは平成19年度から実施して7回目、今回も全国の子どもたちの力作、秀作が集まりました。その中から本会のポスターに採用する作品を決める審査で最終選考まで残った作品をご紹介します。

（絵画の部：応募総数369点）

※ポスター採用作品は1ページに掲載



茨城県ひたちなか市立市毛小学校
2年　益子　桜華さん



茨城県八千代町立八千代第一中学校
3年　古谷　莉瑚さん



川崎市立川崎総合科学高等学校
3年　祖根　真利奈さん



兵庫県立兵庫工業高等学校
2年　徳田　祥子さん

学校保健の最新情報を満載

平成25年度版　学校保健の動向

特集　学校での食物アレルギー・アナフィラキシー対応について　ほか一編

第1章　健康管理の動向　感染症、児童生徒の発育・発達、眼科等科目別ほか
第2章　学校環境衛生の動向　学校環境衛生、学校給食の衛生管理
第3章　健康教育の動向　保健教育、安全教育、食育、エイズ・性教育ほか
第4章　学校保健に関する組織・団体の最近の動向

一般書店等でも購入できます！

■養護教諭、大学関係者必携
■養護教諭養成課程の学生の採用試験対策としても最適



発行／日本学校保健会
2,800円（＋税）

全国大会・ブロック大会（平成25年８月開催分）

平成25年度全国養護教諭研究大会

（山梨県）

「生きる力を育む 健康教育の推進と養護教諭の役割」

第１日目　８月８日（木）
全体会
開会行事
記念講演　演題「愛と夢と勇気を育む健康な学校づくり」
～ WHO ヘルスプロモーションの視点から～
講師　順天堂大学大学院　教授　島内　憲夫
基調講演　演題「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」～心身の健康問題への対応と養護教諭～
講師　文部科学省スポーツ・青少年局
学校健康教育課健康教育企画室
健康教育調査官　岩崎　信子
シンポジウム　演題「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」～学校・家庭・地域が連携した学校保健活動～
コーディネーター　山梨大学大学院　教授　中村　和彦
シンポジスト　千葉県市川市学校保健会
評議委員　小林　靖幸
熊本県熊本市立五福小学校
校長　藤本　典子
群馬県教育委員会事務局
健康体育課　指導主事　山田　知利
山梨県富士河口湖町立
河口湖北中学校養護教諭　小佐野登美子
第２日目　８月９日（金）
課題別研究協議会（８課題）
「保健管理」「保健室経営」「健康相談」「保健教育」「歯・口の健康診断」「性に関する指導」「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」「健康・安全に関わる危機管理」



平成 25 年８月８日（木）・９日（金）の両日、全国から約 900 名の養護教諭、学校保健関係者が参加し、山梨県甲府市において「平成 25 年度全国養護教諭研究大会」を開催しました。１日目は、順天堂大学大学院　島内憲夫教授から学校内外の関係者との連携づくりの中心的な役割を養護教諭が果たし、学校が夢のある楽しい場所となるよう、子どもへの働きかけを行う必要があるとの記念講演を伺いました。また、文部科学省の岩崎信子調査官からは学校保健活動における養護教諭の役割について基調提案をいただきました。シンポジウムでは、学校医、行政、校長、養護教諭から地域連携の取組が報告され、参加者を含めて討議を深められました。２日目は８つの課題別研究協議会に分かれ、実践報告をうけて意見交換が活発に行われました。

大会を通して、養護教諭の専門性を踏まえて、地域連携を基盤に幅広い学校保健活動を推進する必要性が確認されました。今後各地区での実践の広がりが期待されます。

第56回全国学校保健主事研究協議会北部九州大会

「自ら守り育てる心とからだ」

第１日目　８月８日（木）
全国学校保健主事会　総会（理事・評議員会）
研修Ⅰ　講話
「保健主事会の現状について」
全国学校保健主事会　会長　南　良和
研修Ⅱ　グループ別協議・情報交換
・各学校保健主事会・地方ブロックの活動
・研修体制の充実について他
第２日目　８月９日（金）
開会式
表彰式　学校保健功労者表彰
講演
演題　「子どもの心身の健康の保持増進を目指す組織的な学校保健の展開」
～保健主事の基本的な役割とマネジメント～
講師　文部科学省スポーツ・青少年局
学校健康教育課教科調査官　森　良一
研究発表・研究協議
第１研究発表
「健康な生活を営む資質や能力を身につけた子どもを求めて」～学校薬剤師と連携できる体験的活動を取り入れた学習過程の工夫を通して～
福岡県福岡市立千早小学校　田中　盛幸
第２研究発表
「自立的健康観を育む歯科保健教育」
～学校歯科医・歯科医師会に支えられて～
高知県立高知小津高等学校　大崎　昌明
第３研究発表
「生徒の実態に応じた健康教育とその広がり」
～自尊感情を高めてよりよく生きるために～」
鳥取県立日野高等学校　坂野　実
指導助言
長崎県教育委員会　保健体育課
指導主事　佐伯　直也



平成 25 年８月８日（木）・９日（金）の両日、福岡市において全国各地から約 300 名の保健主事（保健主任）及び学校保健関係者の参加のもと、第 56 回全国学校保健主事研究協議会北部九州大会を開催しました。

１日目は、全国学校保健主事会総会を開催しました。議事終了後の理事・評議員研修Ⅰでは、南良和会長から「学校保健主事会の現状について」として講話がありました。また研修Ⅱでは「組織強化と研修体制の充実」をテーマとしてグループ別協議を行いました。各府県及び政令指定都市学校保健主事会の活動について報告し、活発に意見交流を行いました。

２日目の表彰式では、西田恭子氏（近畿　奈良県）、串田工氏（関東　千葉県）、東邦裕氏（近畿　大阪市）、小池洋美氏（近畿　兵庫県）、佐伯孝司氏（近畿　兵庫県）が受賞されました。

講演では、森良一教科調査官から、「保健主事のための実務ハンドブック」（平成 22 年３月　文部科学省）に基づき、学校保健の組織的展開についてご指導いただきました。子どもの心身の健康の保持増進を目指した学校保健を推進するためには、保健主事はミドルリーダーとして学校の各組織を効果的に動かすマネジメントの力量を高めることが重要であること、そして全ての教職員がそれぞれの役割を認識し円滑に遂行することにより学校保健がより一層充実する、と期待を込めて結ばれました。研究発表・研究協議会では３名の先生方の研究発表の後、参加者から活発な意見交換や実践紹介などが活発に行われました。研究協議の指導助言として、佐伯直也指導主事から、組織的な学校保健を推進するための保健主事の実務と留意事項についてご指導いただきました。

大会の成果が保健主事のより一層の資質向上と、各地方学校保健主事会のさらなる発展につながることを期待します。

大会関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

第64回関東甲信越静学校保健大会

～「心と体をはぐくみ、未来をひらく健康教育」～

1　期日　平成25年8月1日（木）
2　会場　東京都　「ハイアットリージェンシー東京」
3　内容
①全体会
・開会式
・特別講演　演題「ゆっくり動くと健康になる」
講師　順天堂大学医学部　小林弘幸 氏
②班別研究協議会
1班　学校経営と学校保健
「教育目標具現化を目指す学校保健」
2班　健康教育
「生きる力をはぐくむための健康教育」
3班　性に関する指導・エイズ教育及び薬物乱用防止教育
「適切な行動選択の力を育てる性に関する指導・エイズ教育及び薬物乱用防止教育」
4班　学校歯科保健
「生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり」
5班　学校環境と安全教育
「快適な学校環境づくりと実践力を高めるための安全教育」



8月1日（木）、東京都新宿区の「ハイアットリージェンシー東京」を会場に、第64回関東甲信越静学校保健大会が開催されました。

開会式に続いて特別講演では、順天堂大学医学部教授の小林弘幸氏に、「ゆっくり動くと健康になる」と題して御講演をいただきました。小林氏は外科のほかにも危機管理を御専門とされており、「ゆっくり動くということは、ゆっくり早く動くということであり、何かをするときに急がずゆっくりすることで気がつくことがあったり、見えてきたりすることがある。」と、日常の健康管理や危機管理についてお話いただきました。御自身の研究をもとに、分かりやすい説明と簡単なエクササイズも取り入れた内容であり、会場は終始、参加者の笑いに包まれ、大変好評でした。

午後の班別研究協議会においては、5班に分かれ、各協議題に沿った実践研究発表や研究協議を行いました。11都県の学校保健関係者による、活発な発言・提言により情報交換がなされ、充実した大会となりました。

第50回北陸三県学校保健研究協議会
兼富山県学校保健研究大会

「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」
―心身の健康づくりに主体的に取り組む子供の育成―

日時：平成25年8月1日（木）
9時30分～16時00分
会場：富山県教育文化会館、富山県総合福祉会館
特別講演：演題「すべての子どもの『心身の健康』を支える学校づくり～『ほんものチーム』をめざして～　」
講師　筑波大学副学長、
附属学校教育局教育長　石隈利紀氏
課題別研究協議会：7班



8月1日（木）、富山市において第50回北陸三県学校研究保健協議会が約400名の参加を得て盛大に開催されました。

開会式に続いての特別講演では、筑波大学副学長の石隈利紀氏に「すべての子どもの『心身の健康』を支える学校づくり　～『ほんものチーム』をめざして～」と題して、経験を織り交ぜながら、支援チームのあり方についてご講演をいただきました。ONLY ONEの存在である子どもの味方になること、子どもの周囲にいる人たちがつながり、チームをつくり、「危機感」「責任感」「希望」を共有し、「みんなが資源　みんなで支援」の気持ちで支援していくことの大切さを学びました。

午後の課題別研究協議会においては、7班に分かれ、各協議題にそって、2校の実践発表後、参加者による活発な意見交換・協議が行われ、最後に各分野の専門家からの講話を聴き、今後の学校保健・学校安全の実践への示唆をいただくなど、大変充実した大会となりました。

第12回　九州地区健康教育研究大会

1　全体会
(1)　シンポジウム
主題「生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」
副題「学校における家庭・地域社会及び関係機関との連携の在り方について考える」
ア　コーディネーター
琉球大学 教授　高倉　実
イ　シンポジスト
沖縄国際大学 教授　井村　弘子
沖縄県立浦添工業高等学校 教頭　知名　朝次
南城市立佐敷中学校 栄養教諭　根川　文枝
琉球大学 助教　神谷　大介
沖縄県高等学校PTA連合会 会長　北川　武一
(3)　特別講演
演題「世界で一番聞きたい保健指導＆健康教育論」
講師　モンゴル健康科学大学客員教授　岡崎　好秀
2　分科会
分科会別研究協議（9分科会）
3　企画展示

8月5日（月）、8月6日（火）の2日間、沖縄県浦添市において、第12回九州地区健康教育研究大会が約750名の参加を得て盛大に開催されました。シンポジウムでは5名のシンポジストが、「子ども・若者の健やかな成長への支援」「特別支援教育の推進」「ランチョンマットを通しての家庭との連携」「学校における災害リスクマネジメント」「自転車事故の現状」とそれぞれの立場から報告し、多くの示唆を与えていただきました。

また、特別講演では、岡崎先生のユーモアあふれる軽快な口調は参加者を惹き付けていました。視覚的な指導法やプラス思考的発想、人柄のにじみ出た講演は大盛況でした。

二日目の分科会は、九つに分かれ、喫緊の健康教育課題に対して、その現状や解決策等について発表が行われました。発表後の質疑応答においても会場からの活発な意見や質問があり、充実した研究協議になりました。



第46回東北学校保健大会

「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」
～進んで健康づくりに取り組む子どもの育成～

1　開会行事
2　実践発表
「元気いっぱい　健康に気をつけて生活できる学校にするために」
～学校・家庭・地域の連携をもとに～
岩手県二戸市立御返地小学校
「望ましい判断と行動選択ができる力を育てる健康教育」
～家族や地域の力になれる中学生に～
岩手県二戸市立福岡中学校
「健康が支える『文武両道』『質実剛健』」
岩手県立福岡高等学校
3　基調講演
「ガツンと一発伝えたいこと」
～人間関係を育てるコミュニケーション力
明治大学文学部教授　齋藤　孝　氏
4　分科会（６分科会）



平成25年８月６日（火）・７日（水）の２日間、岩手県盛岡市において標記大会が、東北各県から約680名の参加を得て盛大に開催されました。

大会１日目の実践発表では児童生徒の発達の段階に応じた系統だった健康教育に係る取組について、小・中・高等学校から発表がありました。また、基調講演では齋藤氏に教育現場で大切なコミュニケーション力についてわかりやすく、また、実際に体を動かして実践的に御講演をいただきました。

２日目の分科会では、６分科会に分かれ研究協議を行い、活発な意見交換がされるなど、今後の学校保健の推進につながる大変有意義な大会となりました。

第19回四国学校保健研究大会

「生涯にわたり、心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒の育成」

1　開会行事
2　記念講演
演題「自殺リスクの理解と学校危機対応の基本」
講師　大阪大学大学院　人間科学研究科
准教授　野坂祐子　氏
3　校種別研究発表会（小学校、中学校、高等学校・特別支援学校）



平成25年８月22日（木）、香川県高松市において標記研究大会が、四国四県から学校保健関係者約530名の参加者を迎え開催されました。

開会行事に引き続き、大阪大学大学院人間科学研究科准教授の野坂祐子先生から、「自殺リスクの理解と学校危機対応の基本」と題して御講演をいただきました。様々なデータに基づき、論理的に整理された御講演は、参加者にとって、学校での事故、特に自殺についての対応の在り方を学ぶとともに、日々の危機管理の重要性を改めて考えさせられるものとなりました。

午後は、小学校部会、中学校部会、高等学校・特別支援学校部会の３部会での研究発表会を行い、各協議題にそって熱心な意見交換が行われました。

参加者や運営役員の高い意欲に支えられた、有意義な研究大会でした。

第58回中国地区学校保健研究協議大会

「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」



平成25年８月22日（木）島根県松江市、島根県民会館を会場に標記大会がありました。

中国各県から約550名の参加者を迎え、開会行事に引き続き、島根大学学長小林祥泰氏により「子どものやる気を引き出す教育とは」と題し、特別講演をいただきました。

医師の立場から、「やる気を引き出すために、まず自分が変わる大切さ」を大学や学校教育現場などの事例を交えながらご講演いただきました。ご自身の研究の成果を交えながらの講演は、大変わかりやすく、参加者一同うなずく場面が多くありました。

職域部会は、４つの部会に分かれ各専門性の部分を深めました。

1　開会式
2　特別講演
演題：「子どものやる気を引き出す教育とは」
講師：島根大学　学長　小林　祥泰　氏
3　職域部会
(1)　学校薬剤師部会（シンポジウム）
テーマ「くすり教育」の各県の取組
(2)　校長・園長部会（講演）
演題：「発達障がい等支援を必要とする児童生徒の理解と対応」
講師：島根県立大学（出雲キャンパス）副学長
山下一也　氏
(3)　学校保健・安全担当教員部会（講演）
演題：「今求められる保健主事のマネジメント」
講師：日本女子体育大学　教授　畑　攻　氏
(4)養護教諭部会（シンポジウム）
主題：「時代に即した養護教諭のあり方をもとめて」
～語り合おう　子どもたちの心とからだを見つめて～
コーディネーター：名古屋学芸大学大学院
教授　采女智津江　氏
4　班別研究協議会（５部会）

班別研究協議会では、５つの課題について、活発な発言・提言により情報交換がなされ大変有意義な、実り多い大会になりました。

虎ノ門（123）

口は生命の入口、心の出口

「おぎゃぁ」と生まれて初めてお母さんの乳首に吸いつき顎・口を一生懸命動かしてお乳を吸いはじめる。私たちは、その生涯を終えるときまで、口から食べたものでできています。60兆個もの細胞からなる私たちは、その一つ一つを口から食べるものと、食べ方に支配されます。口を命の入り口にするか、病の入り口にするか、それは我々の意識如何によるのです。生涯健康であるために、賢く「食」を選び、「食べ方」を学ぶ。一生涯の食習慣の礎となる子どもたちの「食」を考えるとき私たちのできることは何でしょう！食育は何より、おいしく、楽しく、安全に！が大切です。食べ方が及ぼす影響は多面的です。例えば精神機能への拡がりです。よく噛むことで、心が寛ぎ、ストレスも発散されます。また、味覚、嗅覚、聴覚、触覚、視覚などの五感を育むことで豊かな人間性が培われます。目で見て料理の盛り付けや食材の彩を楽しみ（視覚）、美味しさを引き立てる唾液の分泌を促します。その匂いや香りを嗅いで（嗅覚）一口、口に入れ良く噛んで唾液とよく混ぜることで、その素材そのものの香りや風味を味わうことができます（味覚）。また、ぽりぽりカリカリと美味しい音、噛みごたえを楽しみ、また、楽しい会話（聴覚）。食感や、滑らかさと喉ごしを感じながら、食塊にして、ゴックンと飲みこみます（触感）。このことにより、食品の物性を知り飲み込みやすさを知り、窒息事故防止に繋がります。しっかり噛み、飲み込める、歯・口の健全育成、また、それを大切にする心の育成を通して、元気で笑顔の子どもたちを育んでいくこと、ひいては私たちの究極の願いである「健康寿命延伸」に繋がっていくことを、子どもや子どもたちの健康を支える多職種（学校・家庭・地域）の共通認識として「噛みんぐ30」（カミングサンマル）が、推進されることを心から願っています。　**（編集委員　竹内純子）**

編　集　後　記

平成19年度から毎年、全国の学校保健会・教育委員会等を通じて学校へ配布している本会のエイズ教育推進ポスター、今年度版の紙面を飾る絵とキャッチコピーを募集したコンクールには、絵画の部で369点、キャッチコピーの部で714点の応募がありました。昨年に比べると応募数は1割ほど少ないのですが、審査した本会のエイズ教育検討委員会によると、特に小・中学校の部門で例年にもましてレベルの高い作品が集まったということでした。（その採用作品の発表を兼ねて今号の巻頭で、また、最終選考まで残った絵画の部の作品を11ページで紹介しています）

今年度は、小学校版は小学校へ、中学校版は中学校へ、高等学校版は高等学校へ2部ずつ（特別支援学校は3校種）、世界エイズデーに合わせて全国配送する予定です。**（編集委員長　雪下國雄）**

Wacoal

読む下着教室「わたしたちのカラダと下着のはなし」を希望校にお届けします。



ワコールでは小学4年生～中学2年生の女の子と、その保護者を対象にした下着教室「ツボミスクール」を開催しています。
『Dear Girls, わたしたちのカラダと下着のはなし』は、下着教室で講師が話している内容をまとめたテキストです。成長期に生じる体型変化や下着に関する知識や情報をわかりやすく解説していますので、初経指導や二次性徴などの指導に、ぜひお役立てください。

☆テキストの補助教材として、教材用下着サンプルの貸し出しも行っています。
貸し出し期間は3ヶ月です。※数に限りがございますのでご了承ください。

●ホームページからお申し込みください www.wacoal.jp/tsubomi/　ツボミスクール　検索

Wacoal Tsubomi School®

■詳しい内容やお申し込みは、ホームページをご覧ください。Q&Aもあります。
■その他ご不明点は、下記までお問い合わせください。
E-mail：tsubomi@wacoal.co.jp
ＴＥＬ：0120-203-248　[受付時間] 平日9:30～17:30

株式会社ワコール

瞳の健康と快適さを追求　瞳に心地いい※、「アキュビュー」からの提案
世界のヘルスケアをリードする Johnson & Johnson
ワンデーアキュビュー®トゥルーアイ®


アキュビュー® オアシス®



UV BLOCKING
◎コンタクトレンズは高度管理医療機器です。必ず事前に眼科医にご相談のうえ、検査・処方を受けてお求めください。◎ご使用前に必ず添付文書をよく読み、取扱い方法を守り、正しく使用してください。
http://acuvue.jnj.co.jp
ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社 ビジョンケア カンパニー　東京都千代田区西神田３丁目５番２号
※装用感には個人差があります。
承認番号：21800BZY10252000／22200BZX00226000　®登録商標 ©J&J KK 2013

プール用品　エタニウインタークリーン（オフシーズン用防藻剤）

10Kg　400トン対応

投入後
→

〒152-0022　東京都目黒区柿の木坂1－5－1　エタニ産業株式会社　03-5701-7272　Http://www.etanisan.co.jp

無料出張授業
成長期の皮膚トラブル教室
後援：（公財）日本学校保健会
成長途中の中高生にありがちな皮膚トラブル、たとえば
オシャレをしようとしたせいで起こりがちなトラブルや、
ニキビなどの日常トラブルの原因と予防に
ついて、専門医の先生方が学校へ訪問し、
生徒さんに分かりやすく授業いたします。
※今年度は東京地区の中学校・高等学校に限らせていただきます。
オトナの肌とどう違うの？
ニキビってどうして治らないの？
開催日時：平成26年3月末までの水・木・土曜日
http://demae-gakko.org/　お申込み詳細はWebで　成長期の皮膚トラブル教室
（公財）日本学校保健会賛助会員　株式会社アルティナ　〒106-0045 東京都港区麻布十番3-9-7　Tel:03-5418-7758

発行者　(公財)日本学校保健会
会　長　横倉　義武
編　集　会報「学校保健」編集委員会
委員長　雪下　國雄
〒105-0001　東京都港区虎ノ門２－３－17
虎ノ門２丁目タワー６階
電話　03（3501）3785・0968
FAX　03（3592）3898
年６回奇数月１日発行
頒価 1,000 円（年間購読）